

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3390100976		
法人名	医療法人ネバーランド石井内科クリニック		
事業所名	グループホーム マナの木		
所在地	岡山市東区神崎町102-1		
自己評価作成日	令和 6年 8月 10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和 6年 9月 11日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

母体である石井内科クリニックが運営をしている。医療面のバックアップが整っており、安心した生活の提供と、お一人お一人が、その方らしく暮らせるように支援をしています。石井内科クリニックとグループホームマナの木の職員間では、連携がとれており、相互して生活を支えています。利用者様を自分自身や自分の親などに置き換えて支援を行うように考えています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

職員全員が理念を常に意識していることで、日々理念を考慮した支援が入居者に提供されている様子が窺えます。常に本人の気持ちに寄り添って本人本位の介護に繋がっています。母体の石井内科クリニック敷地内にあることで往診時以外でも気になることがあれば連絡し入居者の状況にあわせた医療が提供できるように連携がとれている様子が窺えます。コロナ禍の中でも地域のイベントに参加したり、散歩での挨拶、運営推進会議を通じ地域との関りが途切れないように努めています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念と事業所の理念があります。毎朝の申し送り前と、スタッフ会議の時には、理念が共有できるように唱和を行っている。	毎日の理念唱和以外にも、4月の施設内研修で「理念と倫理」というテーマで職員に理念を再共有したりしています。職員は日々理念に基づいた介護が出来るように心掛けています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りに参加したり、近所へ散歩に出掛けたときには、地域の方へ挨拶をするなど、交流が図れるようにしている。	今年の夏祭り(8月)はホーム内でコロナが流行し参加を断念しましたが、10月には同敷地内の他施設と秋祭りを開催予定で地域の方やボランティアの方も参加予定になっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に一度発行するマナの木だよりを、石井内科クリニックへ掲示して頂いている。マナの木だよりを通じて事業所の紹介を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の時には、事業所内で行っている行事・研修・ひやりハット・事故報告の詳細を報告している。参加者からの意見を頂き、サービスの向上に努めている。	運営推進会議には毎回違う家族に声を掛け参加を促しています。市の実習生が勉強の場として参加することもあります。ホームの実情を話し合い意見や案をもらっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業者指導課へわからないことがあれば、問い合わせをしています。また、運営推進会議の時には、地域包括支援委員との交流が図れるように努めています。	届出等分からないことや気になることがあればすぐに連絡をするようにしています。市の方よりホームの申込書やパンフレットが欲しいと言われたり、ホームを紹介してくれるなど、協力体制が築かれている様子が窺えます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待・拘束委員にて、3か月に1度は会議を行い、身体拘束になりうることなどを話し合っており、スタッフ会議の時には、全職員に共有できるようにしている。研修時には、身体拘束等の適正化のための指針の確認を行っている。	身体拘束委員会で話し合った内容を全職員と共有し、身体拘束のない支援に繋げています。常に入居者の様子を考慮した環境整備にも努めたり、動きを制御しないように配慮しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の為の研修発表を、年2回行っている。研修時には、指針の確認などを職員間で、話し合いを行っています。「ちょっと待ってください」など言っていないか。など話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業で行われている、認知症への様々な取り組みがあることや、勉強会などや支援者同士の話し合いの場などがあることを、スタッフ会議の場において、話をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護保険法改正の時には、重要事項説明書の変更書類を作成、ご家族に説明を行っている。契約時には重要事項説明書・契約書の説明を口頭で行っており、不明な点をお伺いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの要望がある時には、希望に添えるような配慮を行っている。運営推進会議の時には、施設内で行っていることを発表しており、意見を頂いている。今後の対応に反映できるよう考えている。	家族には運営推進会議や、イベントにも参加してもらいホームでの現状を知ってもらいながら意見をもらったりしています。入居者からは日々の中で意見を汲み取るようにし、意見を反映できるように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案は、スタッフ会議の時に意見を出し合い、より良い運営に反映できるように、職員全員で話し合いを行っている。管理者は話し合いをまとめ、代表者へ報告し、意見に反映できるように努めている。	管理者は会議以外でも日々の中で職員の意見や思いを聞き反映できるように努めています。希望休や働き方なども聞き職員が働きやすい職場となるようにも努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、代表者指示による聞き取り調査があります。職員の困っていることや要望などは代表者へ報告している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者からは、職員が外部で行われている研修への参加を促しています。スタッフ会議の時には、参加した研修のレポートを職員へ発表しており、意見交換を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、外部研修への参加を促し、同業者との意見交換がとれるような活動を職員に伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接の時や、電話での会話の中で、不安なお気持ちになられていないか。困っていることはないか。などをお聞きしている。ご本人ではうまく話せない状況化では、ご家族からの情報を聞き出せるよう、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安や困っていること、サービスを行う上で、できることやできないことなどを相互に理解できよう、より良いサービスを行えるように、話し合いができる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階前には、居宅介護支援事業所などと情報を取りつつ、本人が本事業所を利用することが望ましいのか、本人と家族が、グループホームの利用が必要かどうかを見極めて頂けるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の話を聞いたり、一緒に家事をするなど、利用者と職員が、共同に生活ができるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは、随時連絡をとっています。支援方法を共有しながら、共に本人を支える関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚からの「墓参りに行こうと思っている。」や「食事会に行きます」など連絡があれば、関係が継続できるように努めている。	現在玄関先での面会ですがコロナ禍の中で出来ることを継続し関係継続できるように支援しています。家族や友人との関係が途切れないようにホームで作成しているお便りを送ったりして情報共有をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの利用者の、利用者同士の関係性の把握に努めています。居間での生活が円満に送れるように、職員が間に入り、支え合えるような支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後にも、利用者の家族からの相談や、他事業所への情報提供など、できる支援を行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者から希望などがあれば、職員間で共有しています。安全対策を考慮しながら、利用者様が、望む生活が提供できるように、職員間で検討をしています。	入居者との会話や表情などから日々思いを汲み取るように心掛けて、職員間で情報共有をしています。入居者の思いによって家族の協力も得て一人ひとりの意向に沿うことが出来るようにしている様子が窺えます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の会話の中で、昔の生活や仕事の話などをお聞きし、利用者様の考え方・価値観・時代背景などの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の毎日の様子や心身の状態・食事・排泄などを、個人記録や申し送り時に、職員間で情報が共有できるように努めています。毎月あるスタッフ会議の時には、全職員で利用者様の日々の様子などを話し合い、情報を共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月あるスタッフ会議では、利用者様の課題や、行いたいケアを話し合っています。家族からの要望や、医療との話し合いをもとに、ケアマネはケアプランを作成しています。	現在の援助内容を基に各担当職員が意見を紙に書き入居者にあつた援助となっているかをスタッフ会議でも検討しています。家族や本人の意見も反映できるように考慮したケアプランを作成できるようにしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中の様子・夜間の様子は、個別に記録しています。変わったことや気が付いたことは、申し送り時や連絡ノートに記入して、職員間で情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況など、その時々にもどのような支援が出来ているのかを考え、より良い支援やサービスが出来るようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	神崎梅園へ出掛けたり、桜の名所を散策したり、利用者様の心身の状態に合わせて支援をしています。新聞を職員と一緒に見て、地域のことなどの話しをしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	経営母体である石井内科クリニックの往診や受診を行っています。また、主治医が必要と判断した、。家族からの希望がある時には、適切な医院への受診が受けられるように支援を行っています。	石井内科クリニックの往診が月に2回ありますが、何かあれば医師に連絡、相談していることで入居者の様子に合わせた医療が受けられるように連携が取れている様子が窺えます。受診時は職員が付き添っていますが、家族も同行することもあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定を行っている。体調に異常があったり、いつもと違う様子が見られたら、看護師に相談している。看護師は随時、利用者の状態を把握しており、異常があれば主治医へ報告をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が病院などに入院した時には、必要な情報を提供している。利用者の入院期間中のご様子や必要な情報が収集できるように電話連絡をしている。ご家族とは、利用者の情報が共有できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時には、終末期のあり方などを家族と話している。終末期においては、家族・主治医・看護師・介護職員などが共働で利用者の最期を不安なく共有できるように努めています。	入居時には意向を聞いていますが、本人の状況にあわせて早い段階から話し合いを行っていることで本人、家族の意向を踏まえた支援になるようにしています。家族に月に1回請求書を送る際には往診時の記録と一緒に送ることで、医療面での情報共有もしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や急変時の対応。または、感染症などへの対応は、施設内研修などで定期的実践訓練や研修を行っている。必要に応じて主治医へ報告をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的実践訓練、研修を全職員や利用者と共にしている。災害対策について、避難方法や備蓄品などを協議している。運営推進会議時には、行っている研修などを発表しており、地域の方からの助言などを頂いている。	避難訓練以外でも、日頃から何か災害が起こった際のことを職員全員が考えており、必要な物品を揃えたりしています。地域の方にも災害時には協力が得られるように話している様子が窺えます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	食事・入浴等の時間は決まっていますが、ご本人の体調や要望に考慮して対応をしています。声掛けの時には、言葉遣いに注意をしています。	常にプライバシーに配慮した声掛けをするように心掛けています。特に職員目線ではなく、入居者目線の声掛けを意識し本人にあわせた支援を継続することに配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が気兼ねなく思いや希望を表出できるように、声掛けや傾聴に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかなスケジュールは決まっていますが、できるだけご本人のペース・希望に添えるよう、可能な範囲で対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前には、なるべくご本人と一緒に洋服を選んでいます。現在は感染対策の為、外出が困難となっています。季節に合った洋服や下着等はご家族に依頼しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事に合わせて、季節を感じられるメニューを提供しています。お誕生日の方には、手作りおやつ等を利用者様全員でお祝いをしています。テーブル拭きやお膳拭きを、利用者さんと職員で一緒に行っています。	栄養士が考えたメニューを基にホームで手作りしています。誕生日やイベントの際には入居者が食べたいものに変更するなど、食事を楽しむ工夫も見られます。本人にあった食事になるようにミキサー食などの嚥下食にも対応しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者様の食事量・水分量を記録に残し、食事量が減ったり、体重が減少した方には、栄養補助食品等を提供しています。夏は熱中症に留意し、水分をこまめに摂取して頂きます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛けを毎食後に行っています。見守りや介助が必要な方には支援をしています。義歯を使用している方には夕食後洗浄を行い、使用しているコップは定期的に消毒を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の排尿ペースを確認しながら、トイレやポータブルトイレへの誘導を行っている。声掛けが必要な方には、トイレへの声掛けを行っている。	本人の力量 又は機能に合わせた支援になるようにしています。職員間で情報を共有し排泄パターンを把握できるようにしていることで、一人ひとりにあった排泄支援に努めている様子が窺えます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お一人お一人の飲み物の工夫を行い、水分摂取をして頂いている。排便チェックを行っています。適度な運動・歩行を行い、体を動かす支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の意向を伺いながら、入浴をして頂いている。ご本人のペースで入浴を楽しんで頂いている。	本人のペースやタイミングを大切にしています。週に2回を目安にはしていますが、希望があれば毎日でも入浴できるように支援する様子が窺えます。1対1の関わりも大切にしながら入浴を楽しんでもらえるようにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の表情や様子を確認しています。室温のチェックや照明に気を留めており、ゆっくりと休める環境づくりを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や処方箋が変わった時には連絡ノートや申し送り時にて連絡・確認を行っている。服薬時には職員間でダブルチェックを行い、利用者にも確認をして頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干したりたたんだり、食器拭きやお膳拭きなど職員と共に行っている。気候が良いときは散歩へ出掛けたり、ホーム内でカラオケをしています。おやつ時には手作りおやつなどを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防の為、外出は控えている。気候や体調の良い日には、近所へ散歩に出かけている。ご近所の方とお会いするときは「こんにちは」などと挨拶を交わしている。	気候がいい日には散歩や、近場をドライブしたり、毎日午前と午後にはレクリエーションや体操で気分転換を図るよう、支援しています。	コロナ禍の状況に応じて、イベントなどでの外出支援が再開出来るように取り組まれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば、本人・家族と相談して少額のお金が入った財布を所持し、自己管理をお願いしている。買い物の希望があれば一緒に行き、選んで頂く。購入した食べ物は都度提供させて頂く。一緒に行けないものはこちらで購入させて頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいと言われたら、電話を掛けています。伝言などの要望があれば、代わって掛けさせて頂きます。手紙などが届くと、お渡しします。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに壁飾りを作成しています。居間での生活が安心安全に過ごせるよう、家具の位置や利用同士の相互関係など考慮しています。快適に施設内を過ごせるよう配慮しています。	壁面は職員と入居者が一緒に作成した作品が飾られています。入居者の意見も考慮した空調などにも配慮し過ごしやすい空間になるようにしています。職員は入居者が落ち着いて過ごせる空間づくりを心掛けています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間で過ごされている時の会話や表情に注意し、一人になられたらお話をしたり、一緒にお茶を飲んだりして、楽しい居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、使い慣れた物を持参して頂けるよう、お願いをしています。家具等も本人の希望を伺っています。安全な生活が送れるよう、動線への配慮を行っています。	テレビや衣類、本や編み物などの趣味の物や馴染みの物を持ちこんでもらうことで居心地よく過ごせる居室になるようにしています。配置は本人の様子にも合わせながら決め安全も考慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内を自身で移動される時は、スムーズに動けるように動線を考えています。机等の配置も考慮しています。また、家事作業の声掛けや口腔ケアの声掛けをするなど、自立に向けた声掛けをしています。		